



7月園だより

令和 7年 7月 1日
目黒区立大岡山保育園園長

梅雨の長雨を感じる間もなく、早朝から照り付ける太陽の日差しが眩しい季節となりました。

先週夏まつりを行いました。子どもたちの夏の経験を基にクラスで話し合い、チョコバナナやお面、お化け屋敷など、やりたいものを形にし、売り買い等のやりとりを存分に楽しみました。5歳児は金色に輝く龍の乗ったお神輿を作り、3歳児と4歳児の掛け声に合わせて園内を練り歩きました。「わっしょい、わっしょい」と一体感が生まれ、達成感や憧れの気持ちが飛び交う場面でした。2歳児の子どもたちはお客さんとして参加し、緊張した顔つきで一生懸命買い物をしていました。時々「みて」と紙袋の中身を見せてくれるので「たくさん買ったね。お面はそうさんにしたんだね」等と声をかけると、満足そうな笑顔を見せてくれます。次の日の連絡帳にはお家の方に楽しかったと報告する姿がたくさん書かれていました。行事での経験はその当日の経験だけでなく、準備段階やその後の余韻の中での心の動きが大切だと感じます。目的に向かう気持ちや楽しかったと振り返る気持ちなど、年齢に合わせた心の動きがそれぞれあります。保育士はその動きをキャッチして代弁したり共感したりして、その子どもの育ちにつなげていきたいと思います。

水遊び、プール遊びが始まりました。夏の経験は子どもたちを大きく成長させます。一方で温暖化が進み、猛夏をどのように過ごすかが喫緊の課題となっています。冷たい水を使った水遊びやプール遊びでも、外気温や暑さ指数によっては中止せざるを得ない場合があります。子どもたちの命を守りながら、夏の遊びをどのように提供していくか、子どもたちが本物の経験を十分にできるよう職員が知恵を出し合いながら取り組んでまいります。登園時間や持ち物、コドモンへの入力などご協力をお願いいたします。

〈7月の予定〉

中旬

七夕集会（3，4，5歳児）
身体計測 避難訓練



〈8月の予定〉

中旬

プールじまい
身体計測 避難訓練

子どものせかい・ちいさなつぶやき



日頃、子どもたちと楽しいおしゃべりを楽しんでいます。そんな中でかわいいつぶやきを集めてみました。

☆初めて小麦粉粘土に触ったとき、
感触にびっくりしたのか粘土を次々と
放り投げていました。「うわ～、なにこれ～！」と
いう心のつぶやきが聞こえてくるようでした。
(0歳児)

☆箱の中にままごとの具材をたくさんつめて
クッキーづくりの真っ最中のこと。
(子)「みて～！クッキーが楽しそうに並んでる」
とってもおいしくできたんですね～。
(2歳児)

☆妹弟が生まれた子どもに
(保)「赤ちゃんの名前なんていうの？」と聞くと
(子)「分からないんだ～。パパとママは知っているから
お家に来て一緒に教えてもらおうか！」
保育士のような言い方で笑ってしまいました。
(3歳児)

☆竹馬の練習中、動かして歩けるようになって
(保)「自分で歩けるようになったね。竹馬が
軽くなってきたね」と話すと
(子)「ちょっと、食べすぎちゃってたかな～」
自分が重くて動かせないと思ったのですね
(5歳児)

感触遊びを楽しんでいます

りんご組



感触の違いを楽しめるように、小麦粉粘土を粉から一緒に作ってみました。ボウルに粉を入れてみんなで触ると、手を突っ込み、白くなった手を見て微笑んでいます。次はたっぷり水を入れて水分多めの粘土にして渡してみると、手にくっついてしまい「くっついたー」と少し困り顔です。「じゃあこの小麦粉とこねこねしてみて」と粉をかけてあげると、ちょうどいい硬さになるまで一生懸命混ぜて安心したようにニッコリ笑顔になりました。

ある子が少し丸く平たくした粘土を指にのせて「見てーシイタケだよ」と満面の笑みで見せてくれました。粘土がシイタケの傘で指を軸に見立てています。すると他の子たちも真似をして指に粘土をつけ「シイタケー」と嬉しそうです。次は、とても小さくちぎって丸め「ダンゴムシ」と見せてくれます。その形といい大きさといい、まるで本物のダンゴムシのようです。他の子も「ダンゴムシできたよー」と丸めて楽しめます。また細長く伸ばし「これミミズ、先生触れる？」と見せてくれる子もいます。赤い道で見つけたことを覚えているのでしょう。

こねて色々な形を作るうちに、大好きなもの、自分の身近なものに見えてくる子どもたちの発想が楽しいです。感触を楽しむ中で、形を変えること、見立てることなどを楽しんでいきたいと思います。



さくらんぼ組



初夏のような暑い日差しの中、砂場で川作りが始まりました。まず保育士が水路を掘っていると「手伝ってあげるよ」と数人の子たちが一緒になって掘っています。周りでは「何が始まるのかな？」と目を輝かせながら見ている子や、水を入れたジョウロを片手に「もう入れていいかな」とワクワクしながら待っている子もいます。「水入れていいよー」と声をかけると、待っていた子たちが次から次へと水を流していき、だんだんと川になってきました。その様子を見ていた子たちもズボンを捲り上げ大喜びで川の中に入ると、足踏みしたりその場でジャンプしたりして冷たい水の感触を楽しんでいます。楽しそうな雰囲気引き寄せられてジョウロやバケツに水を汲んで運び入れる子もいれば、大きなタライを友達と一緒に持って運び思い切り川に水を流し入れている子もいます。冷たい水が流れてくると川に入っている子どもたちからは「キャー」と大歓声です。どの子も顔に泥しぶきがかかるほどダイナミックに楽しんでいました。この時期ならではの泥や水の感触を子どもたちと思い切り楽しみながら、ワクワクする経験を積み重ねていきます。

